

(様式2)

令和6年度公開授業・公開講座用シラバス

		科目No.	19
大学・短大名	東北学院大学	学部・学科	法学部法律学科
授業科目名	刑法各論Ⅱ	担当教員名	宮川 基
開講期間	9/30～1/27	開講曜日・時間	月16:45～18:15
受入人数	若干名	会場	東北学院大学土樋キャンパス701
公開授業・公開講座の形態(①～③から1つ選択し○をつける)	①対面のみ ②オンラインのみ ③対面・オンラインどちらでも可		
②または③の場合の具体的なウェブ会議ツールの名称等			
授業の目標等	①各犯罪の成立要件について正確な知識を身に付ける。 ②各犯罪に関連する判例について正確な知識を身に付ける。		
授業内容・計画等	第1回 強盗罪と強盗致死傷罪について説明する。 第2回 事後強盗罪について説明する。 第3回 詐欺罪における欺罔行為と錯誤について説明する。 第4回 詐欺罪における財産上の損害について説明する。 第5回 特殊詐欺について説明する。 第6回 恐喝罪について説明する。 第7回 横領罪について説明する。 第8回 背任罪について説明する。 第9回 盗品等に関する罪について説明する。 第10回 毀棄罪について説明する。 第11回 放火罪について説明する。 第12回 文書偽造罪の説明をする。 第13回 証拠隠滅罪・犯人蔵匿罪・偽証罪について説明する。 第14回 公務執行妨害罪について説明する。 第15回 賄賂の罪について説明する。		
テキスト・教材・参考書等	テキストは特にありません。参考図書などは、講義の中で紹介されます。		
履修上の注意	授業中、manaba courseを用いるので、ノート型パソコンなどを持参すること。		
高校生へのメッセージ等	この授業では、ニュース等で見聞したことがある犯罪について学ぶことができます。		

(様式2)

令和6年度公開授業・公開講座用シラバス

		科目No.	20
大学・短大名	東北学院大学	学部・学科	法学部法律学科
授業科目名	憲法Ⅱ	担当教員名	松原俊介
開講期間	9月24日～1月21日	開講曜日・時間	火・16:45～18:15
受入人数	若干名	会場	土樋キャンパス
公開授業・公開講座の形態(①～③から1つ選択し○をつける)	①対面のみ ②オンラインのみ ③対面・オンラインどちらでも可		
②または③の場合の具体的なウェブ会議ツールの名称等			
授業の目標等	①各犯罪の成立要件について正確な知識を身に付ける。 ②各犯罪に関連する判例について正確な知識を身に付ける。		
授業内容・計画等	第1回 ガイダンス／選挙制度と政党① 選挙制度 第2回 選挙制度と政党② 政党 第3回 国会の地位・組織① 国会の地位 第4回 国家の地位・組織② 国会の組織 第5回 国会の活動・権限① 国会の活動と権限 第6回 国会の活動・権限② 議院の権限、国会議員の地位 第7回 内閣① 内閣の組織 第8回 内閣② 内閣・内閣総理大臣の権限 第9回 議員内閣制① 議会と政府との関係 第10回 議員内閣制② 内閣の国会に対する「責任」 第11回 裁判所① 裁判所の組織・権能 第12回 裁判所② 司法権の独立と裁判の公開 第13回 司法権の観念と限界① 司法権の観念 第14回 司法権の観念と限界② 司法権の限界 第15回 第1回から第14回までのまとめのテスト		
テキスト・教材・参考書等	新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡著『憲法Ⅰ 総論・統治 第2版』(日本評論社、2021年、9784535806887)		
履修上の注意	初回のガイダンスで、予習・復習の仕方等を説明するので、受講希望者は必ず出席するようにして下さい。		
高校生へのメッセージ等	本講義の学習は、政治の仕組みを学ぶことであり、皆さんが実際の政治を考える上で必要な基本的知識をその内容としています。普段からニュースに触れて、実際の国会や内閣、裁判の動きにぜひ関心を持つようにしてください。そうすると、本講義で学ぶ内容が生き生きとした意味を持ち、より興味を持つことができるようになるでしょう。		

(様式2)

令和6年度公開授業・公開講座用シラバス

	科目No.	21	
大学・短大名	東北学院大学	学部・学科	法学部・法律学科
授業科目名	法哲学Ⅱ	担当教員名	陶久利彦
開講期間	9/20-1/24	開講曜日・時間	金・16:45～18:15
受入人数	若干名	会場	東北学院大学土樋キャンパス632
公開授業・公開講座の形態(①～③から1つ選択し○をつける)	<input checked="" type="radio"/> ①対面のみ <input type="radio"/> ②オンラインのみ <input type="radio"/> ③対面・オンラインどちらでも可		
②または③の場合の具体的なウェブ会議ツールの名称等	基本的には対面ではあるが、オンライン希望者がいる場合にはzoomで対応する。		
授業の目標等	①各犯罪の成立要件について正確な知識を身に付ける。 ②各犯罪に関連する判例について正確な知識を身に付ける。		
授業内容・計画等	既存の法体系の特徴を俯瞰するのではなく、一個人の「脆弱性」に焦点を当て、それを補うための他者との種々の協働を通じ、自発性と法がどのように現われるのかを検討する。①ガイダンス、②脆弱な個人と宗教、③脆弱な個人と労働・市場、④脆弱な個人と家族、性、⑤脆弱な個人と他者との身体的協働性、⑥脆弱な個人が何かを知ること、科学、⑦脆弱な個人と感情、その共有、⑧(不)正義感情、⑨物事解決とルール、契約、⑩日本社会における法、権利や義務、⑪法準則(＝ルール)と法原理、⑫法原理としての自由、⑬法原理としての平等、⑭法原理としての正義、⑮まとめの試験(範囲:第1回授業から第14回授業)とそのコメント		
テキスト・教材・参考書等	適宜指示する。		
履修上の注意	学部生には3年時までの配当科目特に実定法科目の履修を求めている。		
高校生へのメッセージ等	学部4年生対象科目故、上記「履修上の注意」をしてあるが、内容は高校生にも十分理解できる(、と思う)。関心と時間があれば、是非参加されたい。		

(様式2)

令和6年度公開授業・公開講座用シラバス

		科目No.	22・23
大学・短大名	東北学院大学	学部・学科	教養教育センター
授業科目名	自然の科学	担当教員名	中村教博
開講期間	前期・後期	開講曜日・時間	月・火
受入人数	10	会場	オンデマンド
公開授業・公開講座の形態(①～③から1つ選択し○をつける)	①対面のみ ○②オンラインのみ ③対面・オンラインどちらでも可		
②または③の場合の具体的なウェブ会議ツールの名称等	オンデマンド		
授業の目標等	<p>(1) 能動的な学修のスタイルを身につけ、その成果を他者に伝えることができる。</p> <p>(2) 138億年の宇宙・地球・人類の歴史観(ビッグヒストリー)から物事を捉えることができる。</p> <p>(3) 自分なりの素朴な疑問を持ち、その疑問を解決することに挑戦できる。</p>		
授業内容・計画等	<p>「なぜ宇宙は暗いのか?」といった素朴な疑問を持ったことはありませんか?このような素朴な疑問について、現代科学がどのように138億年の歴史(ビッグヒストリー)を解き明かしてきたかを理解する。この授業では、このような素朴な疑問について各自で調べることで自然科学のこれまでの知識を自分ごととして考える。本講義はメディア授業科目としてオンデマンドにより実施する。</p>		
テキスト・教材・参考書等			
履修上の注意	<p>オンデマンドのため、小テストやレポート提出のため、学修管理システムが必要となる。Google Classroomを利用する予定であるが、利用できない場合は視聴のみとする。</p>		
高校生へのメッセージ等	<p>高校では理科、社会、英語、国語、数学を学んでいます。これらを統合した授業を行いますので、これまでに学んできた知識(点)と授業で学ぶ知識(点)とを結びつける努力をしてください。点と点が繋がる楽しみを味わえることでしょう。</p>		

(様式2)

令和6年度公開授業・公開講座用シラバス

		科目No.	24
大学・短大名	東北学院大学	学部・学科	教養教育センター
授業科目名	生活文化史 I	担当教員名	伊藤大介
開講期間	前期	開講曜日・時間	火 16:45～18:15
受入人数	10	会場	土樋キャンパス6号館 (631教室)
公開授業・公開講座の形態(①～③から1つ選択し○をつける)	①対面のみ ②オンラインのみ ③対面・オンラインどちらでも可		
②または③の場合の具体的なウェブ会議ツールの名称等			
授業の目標等	<p>①情報が作成・使用された歴史的経緯を知ることによって、日本の生活や文化について多角的に理解することができる。</p> <p>②歴史資料の性格や特色に検討を加えることによって、資料を批判的に読み解く技能を身に付け、記されている内容以上の情報を引き出すことができる。</p>		
授業内容・計画等	<p>われわれは手紙やメールでメッセージを伝えたり、新聞やインターネットで最新のニュースを見たりする。このような情報の作成や伝達は、地域社会における生活文化と深く関わっている。</p> <p>本講義では、江戸時代から現代までの歴史資料を読み解きながら、情報の歴史的特質や社会的役割について検討を加える。</p>		
テキスト・教材・参考書等	<p>テキスト□ 授業の内容をプリントして配付する。</p> <p>参考文献□ 参考書や参考文献については、授業中に提示する。</p>		
履修上の注意	<p>小テストやレポート提出のため、学修管理システムが必要となる。</p> <p>メールを使用するなどして、やりとりをする予定である。</p>		
高校生へのメッセージ等	<p>皆さんにとって「歴史」は、いわゆる暗記科目かも知れませんが、もちろん知識はあるに越したことはありませんが、歴史学は単なる暗記の学問ではありません。</p> <p>大学で学ぶ歴史学では、昔の資料に書いてあることが本当か、について疑うことを重要と考えています。そしてそれは、現代を生きる上でも必要な視点だと思います。</p>		

(様式2)

令和6年度公開授業・公開講座用シラバス

		科目No.	25
大学・短大名	東北学院大学	学部・学科	教養教育センター
授業科目名	歴史学	担当教員名	伊藤大介
開講期間	前期	開講曜日・時間	火
受入人数	10	会場	オンデマンド
公開授業・公開講座の形態(①～③から1つ選択し○をつける)	①対面のみ	②オンラインのみ	③対面・オンラインどちらでも可
②または③の場合の具体的なウェブ会議ツールの名称等	オンデマンド		
授業の目標等	<p>①東北地方の近代史を知ることによって、現代の東北地方について、多角的に理解することができる。</p> <p>②地域振興の歴史を知ることによって、災害復興のような現代的課題についても、広い視野から考えることができる。</p>		
授業内容・計画等	<p>戊辰戦争で「賊軍」とされた東北地方は、日本が近代化していく一方で、中央との地域格差に苦しめられるようになる。</p> <p>本講義では、明治初期から昭和戦前期における東北地方の動向について、歴史資料を読解しながら検討を加える。</p> <p>本講義はメディア授業科目としてオンデマンド授業により実施する。</p>		
テキスト・教材・参考書等	<p>テキスト□ 授業の内容をプリントして配付する。</p> <p>参考文献□ 伊藤大介『近代日本と雪害』(東北大学出版会、2013年10月)(ISBN 978-4861632303)。</p>		
履修上の注意	<p>小テストやレポート提出のため、学修管理システムが必要となる。</p> <p>メールを使用するなどして、やりとりをする予定である。</p>		
高校生へのメッセージ等	<p>皆さんにとって「歴史」は、いわゆる暗記科目かも知れません。もちろん知識はあるに越したことはありませんが、歴史学は単なる暗記の学問ではありません。</p> <p>大学で学ぶ歴史学は、昔の資料を見て、教科書に書いてあることを否定することが主な仕事となります。ですのでこの授業では、皆さんに古い資料を読んでもらう形式で進めます。</p>		

		科目No.	26
大学・短大名	東北学院大学	学部・学科	情報学部データサイエンス学科
授業科目名	探究のウラにある科学的思考	担当教員名	牧野悌也、村上弘志、土原和子、菅原研
開講期間	6/29～7/20	開講曜日・時間	土曜・14:00～15:30
受入人数	30名(オンラインは別)	会場	五橋キャンパス 未来の扉センター(予定)
公開授業・公開講座の形態(①～③から1つ選択し○をつける)	①対面のみ	②オンラインのみ	③対面・オンラインどちらでも可
②または③の場合の具体的なウェブ会議ツールの名称等	Zoom		
授業の目標等	仮説を意識した考え方である科学的思考について学び、「探究」に活用できるようになる。		
授業内容・計画等	<p>現在さまざまな場面で探究する力が求められています。「探究」といってもやみくもに探ればよいというわけではありません。「仮説」を意識して探究すると、課題設定や情報収集がしやすくなります。この「仮説を意識した考え方」が科学的思考です。</p> <p>探究のプロセスや結果を他人に理解し納得してもらうためには、科学的思考によりデータを正しく活用し、より良い仮説を提案することが必要となります。</p> <p>本講座は、データに基づき物事を判断し、仮説を立て、科学的に思考することについてわかりやすく紹介します。</p> <p>第1回(6/29) 身の回りのことを観察して仮説を導くプロセスについて紹介します。</p> <p>第2回(7/6) データをもとに説得力のある仮説を立てるプロセスについて紹介します。</p> <p>第3回(7/13) 仮説を論じるにはもっともらしさが大切です。「もっともらしさ」についてデータを用いて考えます。</p> <p>第4回(7/20) わかりやすい具体的なデータを題材に「科学的思考」を実践し、本講座を振り返ります。</p>		
テキスト・教材・参考書等	<p>参考書:科学的思考のススメ:「もしかして」からはじめよう (ISBN 9784623090280)</p> <p>担当教員が著書である上記の本の内容を多く含んだ講座です。</p> <p>資料も配布しますので、参考書がなくてもわかる内容です。</p>		
履修上の注意	<p>関心のある回だけの受講も歓迎します。大学のホームページにも情報が載るのでご覧ください。</p>		
高校生へのメッセージ等	<p>「探究」と言っても、何から始めて何をどう考えれば良いか、実行するのはなかなか難しいことでしょう。仮説を意識すると探究に活用できるようになります。この講座では、仮説をどのように立てるか、データをどのように活用するか、などを学ぶことができます。「科学」と言っても、難しい理屈や数式は出てきません。科学的思考は身の回りの問題にも役立ちます。さまざまな例を交えてわかりやすくお話しします。各教員の専門分野の話もわかりやすく紹介しますので、大学での研究の一端も知ることができる講座です。</p>		